

釈迦如来像 国宝

この像は仏教の創始者である仏陀＝釈迦牟尼の像である。仏陀は約 2,600 年前に悟りを得て、衆生を救済することを誓った。

この像は桂材と漆、金箔を使ってつくられている。その来歴は明らかではないが、穏やかな表情をしており、優雅なひだの衣を身にまとっている。これは平安時代（794～1185 年）の仏像の特徴であり、革新的な仏師であった定朝（1057 年没）のスタイルを彷彿とさせる。像の後ろにあった光背は失われており、台座は後年付け加えられたものである。

仏陀の右手は持ち上げられ、手のひらはこちらに向けられている。これは施無畏印と呼ばれる仕草であり、恐れを払いのけることを象徴している。一方、左手は膝の上に置かれ、願いを叶える与願印のかたちをしている。